

1 .地域包括ケアを支える看看連携を円滑にする体制の構築に関する研究 報告書

研究の目的：

地域の病院・施設・在宅ケア機関等を含む看看連携体制の構築は、地域全体の看護の質向上において重要と考える。本研究では、地域の医療連携の中核を担う中核病院を中心とした看看連携体制の構築について、先進事例のヒアリング等を通して、方法論を検討し、全国で実施可能な看看連携構築のガイドラインを作成することが本研究の目的である。

研究の実施経過：

7月には第1回会議を実施し、以降3月までに計4回会議を実施した。看看連携についての共通認識を持ってヒアリング項目を作成し、高知、山形、新潟、大阪、東京で、看看連携の成功例と思われた事例をヒアリングした。その結果を踏まえ、看看連携体制構築にあたっての、主に病院の看護職(特に管理職)が持つべき認識や、構築のプロセスなどを整理したうえで、分担してガイドライン案の執筆にあたった。

研究結果の概要：

看看連携構築のきっかけは、病院内の看護職による課題認識から、それが地域全体の課題であると看護部がとらえて行動に移したことであったり、地域から病院への退院支援促進等に対する要望であったりした。病院内・地域の多機関間での協

力を得ながら、会議や勉強会を重ねる中で、多機関の看護職間の交流が深まり、看護の提供等にも好影響を与えていた。これらのプロセスをガイドライン案にまとめた。(添付資料：なお、現在改定作業中である)

研究により得られた成果の今後の活用・提供：

来年度は看看連携に関するガイドライン案を用いてワークショップを行い、中核病院を含めた看看連携体制構築方法の普及に努めるとともに、ガイドライン案を改良し、種々の媒体を通して公表することを検討している。